

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称 :	酸化鉄
製品コード(製品名) :	芭蕉印
会社名:	森下弁柄工業株式会社
住所:	三重県伊賀市四十九町2397番地
電話番号:	0595-21-2636
緊急連絡電話番号:	0595-21-2636
FAX 番号:	0595-24-1836
推奨用途及び使用上の制限:	塗料、印刷インキ、合成樹脂、建材、製紙、陶磁器、道路、ゴム、絵具クレヨン、化粧品等の着色料

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性／引火性ガス	分類対象外
可燃性／引火性エアゾール	分類対象外
支燃性／酸化性ガス類	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	区分外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性化学品	区分外
水反応可燃性化学品	区分外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類できない
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない
急性毒性(経口)	分類できない
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入:粉じん)	分類できない
急性毒性(吸入:ミスト)	分類対象外
皮膚腐食性・刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分外
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	区分3(気道刺激性)
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	区分1(呼吸器系)

人健康有害性

環境有害性

吸引性呼吸器有害性	分類できない
水生環境急性有害性	分類できない
水生環境慢性有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル: 感嘆符 腐食性 健康有害性
 注意喚起語:
 危険有害性情報:

危険
 皮膚刺激
 重篤な眼の損傷
 呼吸器への刺激のおそれ
 長期又は反復ばく露による呼吸器系の障害

【安全対策】 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
 粉じんを吸入しないこと。
 取扱後はよく手を洗うこと。

【救急処置】 吸入した場合、空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
 汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
 眼に入った場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。
 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
 皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】 容器を密閉して換気の良い場所で施錠して保管すること。

【廃棄】 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

単一の化学物質・混合物の区別: 単一の化学物質
 化学名又は一般名: 酸化鉄
 別名: 酸化第二鉄
 三酸化二鉄
 化学式: Fe₂O₃
 官報公示整理番号(化審法): (1)－357
 CAS番号: 1309-37-1
 分類に寄与する不純物及び安定化添加物: なし
 濃度又は濃度範囲: 96.0%以上

4. 応急措置

吸入した場合: 被災者を新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合: 汚染された衣類を脱ぐこと。
 皮膚を速やかに多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

目に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合: 医師に連絡すること。
 口をすすぐこと。

予想される急性症状及び遅発性症状: 吸入: 咳
 眼: 発赤

最も重要な兆候及び症状: 情報なし。

応急措置をする者の保護: 情報なし。
 医師に対する特別注意事項: 情報なし。

5. 火災時の措置

消火剤: 本製品は不燃性である。周辺火災に適応した消火剤を用いる。
 使ってはならない消火剤: 棒状注水
 特有の危険有害性: 情報なし。
 特有の消火方法: 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 消火を行う者の保護: 消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め、適切な化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置: 関係者以外の立入りを禁止する。
 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
 作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や粉じん、ミストの吸入を避ける。
 風上に留まる。
 環境に対する注意事項: 環境中に放出してはならない。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
 回収、中和: 漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収する。
 封じ込め及び浄化方法・機材: 危険でなければ漏れを止める。
 二次災害の防止策: 情報なし。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
 局所排気装置・全体換気: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気装置、全体換気を行なう。
 安全取扱い注意事項: 接触、吸入又は飲み込まないこと。
 眼に入れないこと。
 取扱い後はよく手を洗うこと。

接触回避: 「10. 安定性及び反応性」を参照。

保管

技術的対策: 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
 混触危険物質: 「10. 安定性及び反応性」を参照。
 保管条件: 容器は、換気の良い涼しい所で保管すること。
 混触危険物質、可燃物から離して保管する。
 施錠して保管すること。
 容器包装材料: 包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度: 3.0mg/m³ (鉱物性粉じん)

許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標):

日本産業衛生学会 (2005年版) 第2種粉じん (吸入性粉じん 1mg/m³、総粉じん 4mg/m³)

ACGIH (2005年版) TLV-TWA 5mg/m³

設備対策: 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。
 高熱工程で粉じん、ヒュームが発生するときは、空気汚染物質を許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。
 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器の保護具: 適切な呼吸器保護具を着用すること。
 手の保護具: 適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具:	適切な眼の保護具を着用すること。 安全眼鏡を着用すること。撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起こりうる時は、包括的な化学スプラッシュゴーグル、及び顔面シールドを着用すること。
皮膚及び身体 の保護具:	保護衣、安全靴等の保護具を着用すること。
衛生対策:	取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态、形状、色など: 比重(密度): pH: 融点・凝固点: 沸点、初留点及び沸騰範囲: 引火点: 爆発範囲: 蒸気圧: 蒸気密度(空気 = 1):	赤褐色粉末 ^{1), 2)} 5.0~5.2 データなし 1565°C ^{2), 4), 5)} データなし 燃焼しない 燃焼しない 該当しない 該当しない	臭い: 無臭 オクタノール/水分配係数: 該当しない 自然発火温度: 燃焼しない 分解温度: データなし 臭いのしき(閾)値: データなし 蒸発速度(酢酸ブチル = 1): 該当しない 燃焼性(固体、ガス): 不燃性 粘度: データなし 溶解度: 水に不溶 ^{1), 2)}
--	--	---

10. 安定性及び反応性

安定性:	常温、常圧下では安定。
危険有害反応可能性:	次亜塩素酸カルシウムと接触すると反応する可能性がある。
避けるべき条件:	高温、混触危険物質との接触。
混触危険物質:	アルミニウム、酸化エチレン、塩素酸カルシウム。
危険有害性のある分解生成物:	情報なし。

11. 有害性情報

急性毒性:	データなし
皮膚腐食性・刺激性:	ヒトの皮膚に発赤が生じ、中等度の刺激性がある。 ^{2), 3)} 皮膚刺激(区分2)
眼に対する重篤な損傷/刺激性:	ヒトの眼に腐食性がある。 ³⁾ 重篤な眼の損傷(区分1)
呼吸器感作性又は皮膚感作性:	呼吸器感作性: データなし 皮膚感作性: データなし
生殖細胞変異原性:	in vivo の試験結果が無く、in vitro で複数指標の強い陽性結果も無く技術指針に分類できないとした。
発がん性:	ACGIH はグループ A4(ヒト発がん性に分類できない物質)に分類されていることに基づき、区分外とした。
生殖毒性:	データなし
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露):	ヒトで咳が見られ、息苦しさもあるとの記載 ^{4), 5)} に基づき、区分3(気道刺激性)とした。 呼吸器への刺激のおそれ
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露):	ヒトで胸部X線所見に異常を生じるが、臨床的に問題はないとの記載 ⁶⁾ および肺に蓄積すると鉄症になるが、良性のものであり線維症に進展しないとの記載 ⁶⁾ がある。また、ばく露により金属熱にかかることがあるとの記載 ³⁾ がある。良性ではあるが肺への影響が見られたこと、および金属熱にかかる可能性があることから、区分1(呼吸器系)とした。 長期または反復ばく露による呼吸器系の障害
吸引性呼吸器有害性:	データなし

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性:	データ不足のため分類できない
水生環境慢性有害性:	データ不足のため分類できない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物:

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装:

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

非危険物

航空規制情報

非危険物

国内規制

陸上規制情報

特段の規制はない。

海上規制情報

非危険物

航空規制情報

非危険物

特別の安全対策

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15. 適用法令

労働安全衛生法:

名称等を通知すべき有害物
(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)
(政令番号 第192号)

水質汚濁防止法:

第3条

16. その他の情報

参考文献

- 1) HSDB (2005)
- 2) ICSC (2004)
- 3) IUCLID (2000)
- 4) Lange (16th, 2005)
- 5) Lide (85th, 2004-2005)
- 6) ACGIH (2001)
- 7) 化学物質の危険・有害性便覧 中央災害防止協会(1992)
- 8) 発がん性物質の分類とその基準第6版 日本化学物質安全・情報センター(2004)
- 9) GHS 分類結果(ゼファー (株))

ご注意

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成されており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の取扱を対象としたものであって、特殊な取扱をする場合は、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。